

令和2年度 学校評価

島根県立大東高等学校

教育目標

知・徳・体 調和のとれた人間の育成
 (1) 広く知識を求め、不断の勉学に努める生徒を育てる
 (2) 自己を大切にすると共に、他者を思いやることのできる心豊かな生徒を育てる
 (3) 積極的に心身の鍛錬に努める生徒を育てる

教育重点目標	目標達成のための方策	評価指標	自己評価	学校関係者評価		改善策
					意見等	
(1) つながる力 (人間力) の育成 他者とのつながりの中で、多様性を認め、自他ともに大切にすることのできる心豊かな生徒の育成 生活態度を育成する に受け止める力と相手を意識した対話力を育成する (2) つなげる力 (学力) 的的に学習を推進し、自分自身のキャリア実現につなげることのできる生徒の育成 ・学んだことを確かな学力にし、主体的に学びに (3) つむぐ力 (社会力) の育成 社会や世界とのつながりを自覚し、自分自身の未来を地域の未来につむいでいこうとする気概を持った生徒の育成	①人権・同和教育に関するホームルームや講演会を通し、人権教育を進め、生徒の人権意識を高める。また生徒の情報共有に努め組織として対応する。	生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	B	A	積極的に人権教育に取り組み、生徒・保護者から高い評価を得ていることは非常に評価できる。今後もしっかりと取り組んでいってほしい。	・人権・同和教育に関しては、内容が硬直しがちなので、社会情勢に合わせて更新する。生徒面談等で生徒に丁寧に向き合うことを継続する。生徒に関する情報共有は生徒指導部と、分掌・教員間の情報共有は管理職と連携して方策を考える。
	②ICT機器などを活用し、授業の工夫・改善を行い教師の授業力を向上させ、生徒の学力を向上させる。	生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	A	A	生徒の理解力には差がある。学力差に応じた対応を考えてもらいたい。コロナ禍の中で、より有効的な活用を工夫してほしい。	・概ね良好である。 ・新型コロナウイルス感染症への対応として、リモート授業の必要性が高まった。休校時に活用できるようにしていかなければならない。
	③定期的に家庭学習調査を実施し、学習習慣を身につけさせる。 個別面談を通し、生徒理解に努め個別指導などを実施する	生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上 学習時間調査の結果 60分以上 80% 90分以上 65%	B	B	個々の生徒に対し細やかな対応をしている。ただ教員の肯定的評価の割合に比べ、生徒の肯定的評価はそこまで高くない。教員と生徒の意識の違いは何かを検証し、より有効な対応を心がけてもらいたい。	・家庭学習について生徒および保護者とも約70%が良好、約25%が不十分としている。昨年度よりは改善されたが、家庭学習の必要性と重要性を認識させ、学校と家庭が一体となって、学習習慣を身につけさせるよう継続して指導していく。 ・新型コロナウイルス感染症への対応として、自学できる力を普段から身につけさせておく必要性が感じられた。自学力を高められる指導も加えていく。
	④総合的な学習・探究の時間を中心としたキャリア教育の充実を図るとともに、生徒が課題を発見し、解決に向かって粘り強く取り組むことができる資質と能力を養う。	生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	C	B	多くの生徒は肯定的な評価をしているが、教員の評価が低い。生徒と教員との総合的な学習・探究に関する意識の差を埋めていかなければならない。今、社会で求められているコミュニケーション力や調整能力を高める場であると思うので、充実したものとしてほしい。また、コロナ禍の中で、取り組みをどのように評価していくか考えてほしい。	・探究活動を肯定的に捉えている生徒が多い。 ・地域パートナー探しは、自主性・主体性を育むものであった。 ・「あり方やビジョンの共有。教員の関わり方。コーディネーター任せ。客観的な評価データの不足。キャリア実現に「どうつなげるのか」「つながるのか」を理解させる。保護者への広報活動。教職員への啓発活動。」など課題は多い。 年度内に教員研修会を実施し、研修内容や運営体制の改善に生かす。
	⑤全校生徒が参加できる織部祭等の行事を生徒会主体で運営し主体性を養う。また部活動への積極的な参加を促し、文武両道の実践を図る。	生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	A	A	肯定的評価が高く、生徒の満足度が上がる。生徒・教員のやりがい、生徒募集の面で部活動の精選は難しいが、生徒数の減少、部顧問の負担などを考えると、改革を進めるときではないか。	・コロナ禍の状況の中で、満足いく取り組みはできなかったが、これまで以上に生徒会及び各種委員会活動を充実させ、他の生徒も含め主体的に学校づくりに参加できるよう支援していく。 ・部活動の加入率94%と多くの生徒が積極的に部活動に参加している。今一度、部活動のあり方・取り組み方を顧問会で検討し、文武両道できるよう支援していく。
	⑥「進路の手引き」の発行、企業訪問・大学見学等を通し、生徒の進路意識の高揚を図る。 模試分析・進路検討会を充実させ生徒一人一人にあった進路指導を行う。	生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	A	A	コロナ禍の中でよく頑張っている。進学中心となると思うが、計算力や漢字力など基礎学力の定着を疎かにすることなく、基礎学力の上に生きる力が育つような進路指導をしてほしい。	・おおむね良好な評価を得た。生徒面談を通して、きめ細かい進路指導ができた。 ・今年度は進路見学会が実施できず、ガイダンス形式にはなったが、生徒にとっては貴重な情報収集の場になったと思う。保護者に対しては、さまざまな通信物によって情報提供を行い、継続的に諸活動の意義を伝えていく必要がある。
	⑦学校便りやホームページの内容を充実させ、地域に対する学校としての発信力を高める。 学校行事等の公開やPTA活動を通して、保護者や地域と連携した活動を充実させる	生徒、保護者、教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	A	A	義務教育と違い、保護者と学校の接点が少ない。学校の様子を知りたいという気持ちは保護者にある。情報発信はよく頑張っているが、HPをあまり見ない保護者への情報発信の方法を考えてほしい。	・取材や原稿など協力いただきホームページ (昨年度53回、今年度106回) やフェイスブックの更新回数を大幅に増やすことができた。今後、ホームページのリニューアルを行い、さらに効果的な情報発信に努めたい
	⑧オープンハイスクールの内容を充実させ、中学生に大東高校の魅力を発信するとともに、部活動の合同練習など中学校との交流連携活動を充実させる	教職員アンケートによる肯定的評価75%以上	B	B	中学生に対し、大東高校の魅力はこれだ。というものをしっかりと出してほしい。	・おおむね肯定的評価をいただいた。 ・オープンハイスクールの時期が11月になり、中学3年生の進路決定のためには時期が遅すぎると考えられる。来年度は夏に実施することで、適切な時期での情報発信としたい。

評価基準 (A・B・C・D 4段階) A: 目標達成 B: ほぼ達成 C: 達成までもう一歩 D: 達成に至らず

○学校関係者評価委員からの主な意見

・風通しの良い職場となるよう組織としての対応を心がけてもらいたい
 ・休日出勤や早朝勤務、除草などの環境整備など教職員の方はよくやっておられる。その一方で働き方を見直す時期ではないか。部活動の在り方や、勤務時間内で業務を終わらせるなど、改革を進める意識を持つことが大事。